

# 全施連

発行者  
一般社団法人  
全国知的障害者施設家族会連合会  
理事長 由岐 透  
編集 全施連広報部会  
住所 〒650-0016  
神戸市中央区橋通3-4-1  
神戸市立総合福祉センター内

## 生きる資格ないのか重度障害者 ヒットラーの思想持つ確信犯罪

平成28年7月26日未明、神奈川県相模原市にある障害者支援施設「津久井やまゆり園」で、元職員による殺傷事件が発生しました。この凶行により、津久井やまゆり園の利用者19人の方が亡くなり、29人(うち職員3名)の方が重軽傷を負いました。

この犯人は、今年2月津久井やまゆり園を名指しして、障害者を抹殺することをほめかす犯行声明を、衆議院議長宛てに届けていました。これへの対応として、相模原市は犯人の強制措置入院を行い、犯行声明に至る背景や健康状態などを検査・確認しました。

この事件は単なる精神異常者による犯罪とは考えられない、ドイツヒットラーの思想そのものであることが、本人の告白でもあきらかです。

またこの事件は国の福祉政策の遅れからくる私たち一人ひとりの問題をつきつけたともいえる事件です。

だからこそ、全施連の組織があり、研修を重ねながらの運動を強化する必要性を提起している事件でもありました。

津久井やまゆり園家族の会みどり会は、8月6日家族会会長が次のような声明を出し、関係者の支

援へのお礼と、長期的な視点からの支援の必要性と理解をお願いしています。

『津久井やまゆり園の家族は7月26日未明に起こった未曾有の惨事に深い悲しみと無念さで一杯です。』

亡くなられた方々のご葬儀は滞りなく終わりましたが、今まだ入院中の方が18名、自宅等での待機者14名、他の施設への移転14名、園での生活92名(内28名が体育館)が、それぞれの場所で慣れない生活を送っております。

現在社会福祉法人かながわ共同会が、警察の捜査の終了を待って、津久井やまゆり園での平常な生活を取り戻すための準備を、あらゆる可能性を探りながら懸命に進めておりますので、それを信じて一刻も早い再生を祈念しているところです。(中略)

そして、かって経験したことのない心痛と混乱の中、懸命な支援と園の運営を続けていただいている職員の皆様に、心から感謝とお礼を申し上げます。

本来にありますがごさいます。また、園の再生には、神奈川県、相模原市、知的障害者支援施設をはじめとする関係者皆様のご理解

と特段のご支援が不可欠です。何卒、よろしくお願いいたします。』

## 全施連の取り組み

全施連は事件発生後、直ちに以下の声明文を出し、広く社会に家族の心情を訴えました。また、早い時期に由岐理事長が現地を訪ね、献花と弔慰をお伝えする予定になっています。



全施連声明文

障害者支援施設での惨烈な事件について  
一般社団法人全国知的障害者施設家族会連合会 理事長 由岐 透

7月26日未明、神奈川県相模原市の障害者施設で起こった惨烈な事件は日本全国に大きな衝撃が走りました。

とりわけ障がいのある当事者や家族、関係者の受けた大きな衝撃、深い悲しみと非道な行為に対する憤怒の念が込み上げてきます。

犠牲になった知的障がいのある当事者、そのご家族に哀悼の意を表すとともに、重軽症を負った方たちの一日も早い回復を祈ります。

容疑者が衆議院議長公邸宛に書いた手紙には「障害者は人間としてではなく、動物として生活しております。」「私の目的は重複障害者の方が家庭内での生活、及び社会活動が極めて困難な場合、保護者の同意を得て安楽死できる世界です。」と書いています。

この文章は知的障がい者を人間と認めず、社会的生存権を否定し、家族に安楽死の同意を求めています。

私たちはどんな重い障がいを持っていても、この社会に人間らしく生きる権利を持っていると考えます。

我が国は憲法もそれを保障しているのです。

また、障がい者権利条約に2007年に賛成署名をし、2014年2月批准しています。

障がい者の安楽死を認めよとは言語道断の身勝手なドイツのヒトラーにも似た考えです。

重度障がい児(者)の父と言われた糸賀一雄先生は「この子らに光を」ではなく「この子を光に」と言われました。それはこの子らの存在によって人間性のあり方や社会の歪みを映し出し、友愛に満ちた社会の実現を声なき声で願っているからでしょう。

世界中のどこの国にも貧富の差や身分の上下に関わりなく、障がい者は生まれ存在しています。アメリカの有名な障がい者であつ

たヘレン・ケラーは「障害を持つことは不自由であつても不幸ではない。不幸にしているのは社会の差別だ」という名言を残しています。

この事件は、精神異常者による殺人事件であるかもしれませんが、人の命の大事さを実感できる障害者支援施設で働いていたにも関わらず恐るべき社会観が醸成された計画的な大量殺人の実行であることを直視し、政府、政治家、障がい者とその家族や一般国民にも警鐘を鳴らしていると考えます。

私たち知的障がい者の家族は、わが子らに支援していただく方々のご協力を得ながら心死にその命を守っています。

最後に今回の容疑者のような危険思想が社会に生まれ、蔓延してはならないことを願う次第です。

2016年7月29日

全施連は、今後の神奈川県における取組の推移も見ながら、今回のような事件の再発防止のための各県連での活動を、支援して行く考えです。

